

さか た
坂 田 遺 跡

福岡県八女市今福字坂田所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第86集

2009

八女市教育委員会

序

八女市の北西部には八女丘陵から延びた台地が拡がり、台地上では茶や果樹の栽培が盛んに行なわれています。

今回の発掘調査は株式会社NIPPONコーポレーションの工場拡張工事に伴い、工場拡張予定地内に周知の埋蔵文化財（坂田古墳）が存在したため、建設前に発掘調査を実施したものです。発掘調査の実施にあたりまして株式会社NIPPONコーポレーション九州支店（常務執行役員支店長 藤居光夫）、日舗建設株式会社（九州営業所理事長 橋爪史勝）をはじめ、関係各位に終始ご協力いただき、心から感謝いたしております。

平成21年3月31日

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

例 言

- 1 本書は八女市教育委員会が福岡市中央区大手門株式会社NIPPONコーポレーション九州支店（常務執行役員支店長 藤居光夫）の委託を受けて実施した福岡県八女市今福字坂田所在、坂田遺跡の発掘調査報告書である。当初古墳として調査を実施したが調査の結果古墳ではない事が判明したため坂田遺跡の名称を使用している。
- 2 発掘調査は平成20年度に八女市教育委員会が主体となり実施した。なお、出土した遺物については岩戸山歴史資料館で整理を行い保管している。
- 3 遺構の実測は参加者で行い、写真は赤崎が撮影した。
- 4 本書の執筆、編集は赤崎が行った。

本文目次

1	はじめに.....	1
2	位置と環境.....	3
3	調査経過.....	4
4	遺構と遺物.....	6
5	まとめ.....	22

挿図目次

第1図	坂田遺跡と周辺の遺跡分布図 [1/25,000]	第15図	坂田遺跡 SK01
第2図	坂田遺跡 調査位置図 [1/2,500]	第16図	坂田遺跡 SK02
第3図	坂田遺跡 発掘前風景（東から）	第17図	坂田遺跡 SK03
第4図	坂田遺跡 発掘前風景（北から）	第18図	坂田遺跡 SK04
第5図	坂田遺跡 地形図 [1/200]	第19図	坂田遺跡 SK05
第6図	坂田遺跡 遺構配置図 [1/200]	第20図	坂田遺跡 SK06
第7図	坂田遺跡 土壌(SK02・06) 溝(SD01) ビット(P-5・P-8) 表採 出土土器実測図[1/3]	第21図	坂田遺跡 SK07
第8図	坂田遺跡 表土除去 遺構検出	第22図	坂田遺跡 SK08
第9図	坂田遺跡 SB01 全景（南から）	第23図	坂田遺跡 SK09
第10図	坂田遺跡 竪穴住居（SB01）実測図 [1/40]	第24図	坂田遺跡 SD01と土壘
第11図	坂田遺跡 竪穴住居（SB01）出土土器実測図 [1/4]	第25図	坂田遺跡 溝（SD01）・土壘 土層実測図 [1/40]
第12図	坂田遺跡 土壌（SK01～09）実測図 [1/40]	第26図	坂田遺跡 SD01と土壘
第13図	坂田遺跡 土壌群	第27図	坂田遺跡 SD01土層
第14図	坂田遺跡 土壌群	第28図	坂田遺跡 溝（SD01）ビット 表採 出土土器実測図 [1/4]
		第29図	坂田遺跡 竪穴住居（SB01）表採 出土土器製品実測図 [1/3]

表目次

表1	坂田遺跡 出土土器一覧表	表3	坂田遺跡 SD01・ビット・表採 出土土器一覧表
表2	坂田遺跡 SB01 出土土器一覧表	表4	坂田遺跡 SB01・表採 出土土器製品一覧表

1 はじめに

坂田遺跡は福岡県八女市今福字坂田620番地に所在する。

調査の発端は、株式会社NIPPONコーポレーション今福工場が工場敷地の増設を計画されたが、敷地内には周知の遺跡（坂田古墳）が存在していた。坂田古墳は平成2年7月18日に行なった開発に伴う試掘調査の際発見され、直径約15m、高さ1.2mの古墳として存在が知られていた。このため開発にあたっては両者が協議を重ね、造成によって削平される部分約3,477㎡の内、古墳部分の調査を実施する事とし、平成19年11月28日付けで発掘届が提出された。発掘届の提出により平成20年度の事業として調査を実施する事となり、平成20年4月14日付けで「埋蔵文化財発掘調査整理事業委託契約書」を締結した。

調査は平成20年4月21日に開始、梅雨と予想外の遺跡掘りもあり平成20年6月30日に現地での発掘調査は終了した。引き続いて整理と報告書の作成を行った。

平成20年度の調査関係者は次のとおりである。

平成20年度

発掘調査委託

株式会社NIPPONコーポレーション九州支店

常務執行役員支店長 藤居光夫

八女市教育委員会

教育長 中島清志

社会教育課課長 飯田せつ子

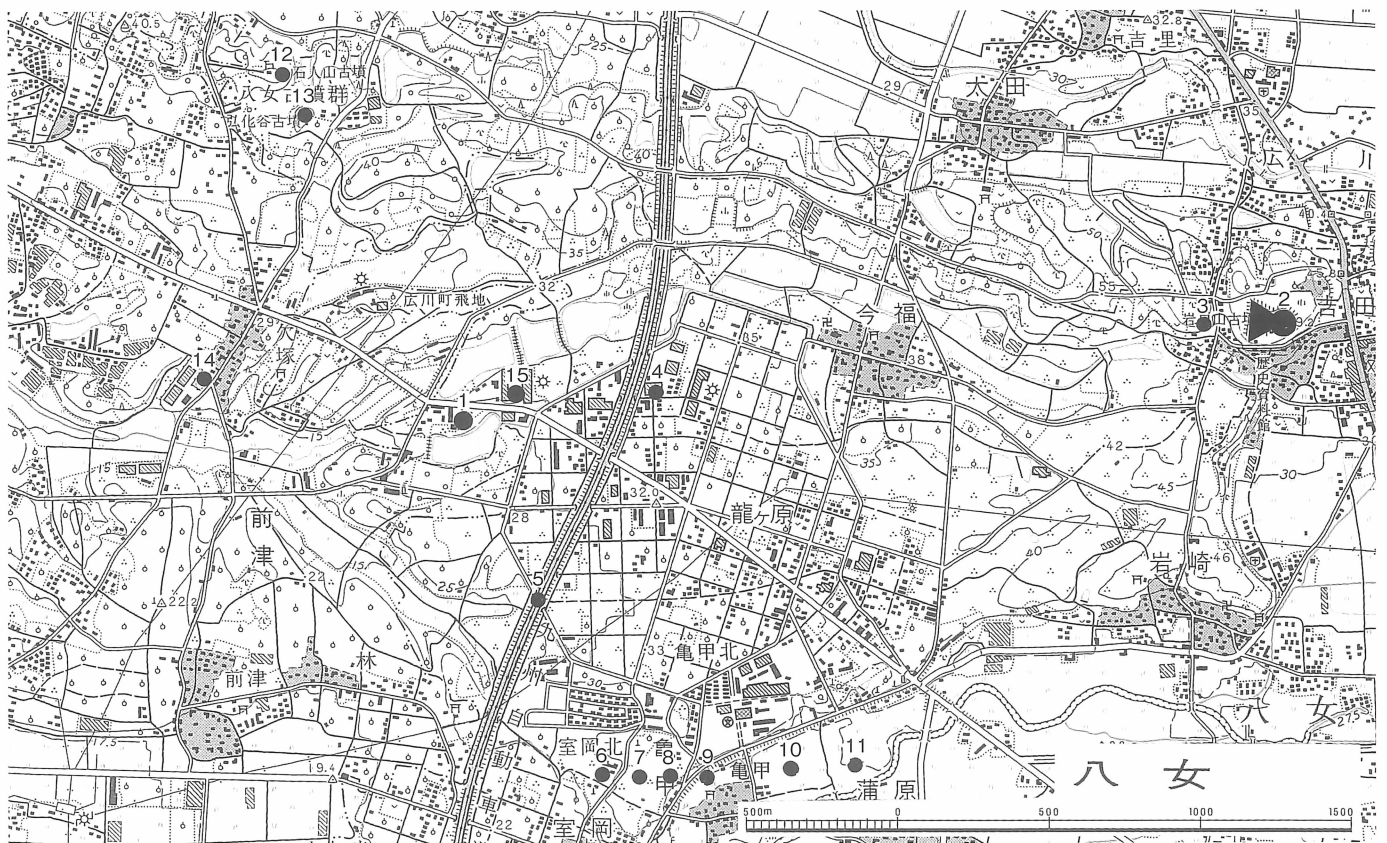
社会教育課参事補佐 松崎保元

〃 江崎邦博

社会教育課文化財係長 赤崎敏男

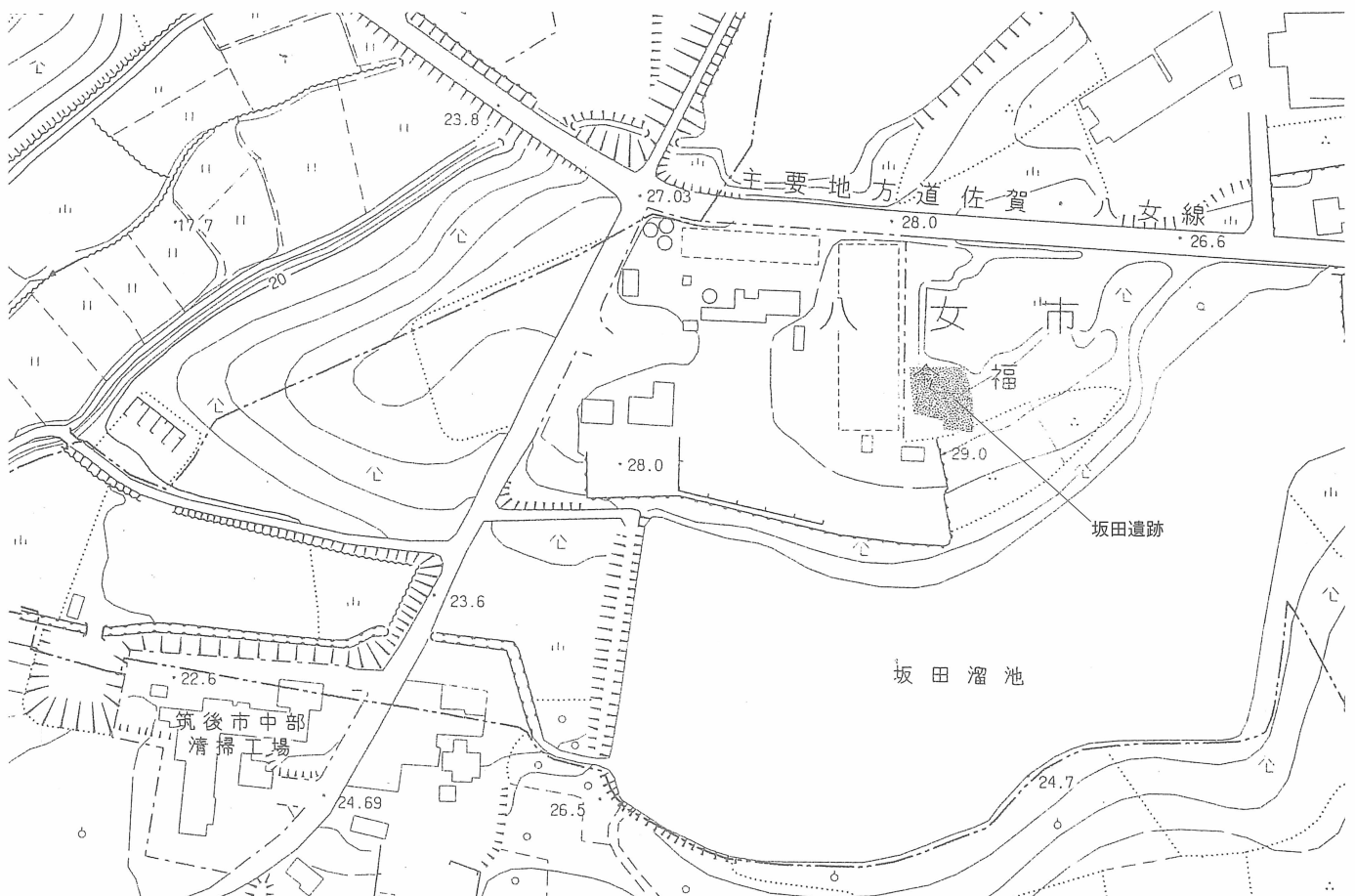
同係員 中川寿賀子

大塚恵治



1. 坂田遺跡 2. 岩戸山古墳 3. 岩戸山4号墳（下茶屋古墳） 4. 寺ノ西遺跡 5. 西中ノ沢遺跡 6. 一般国道442号八女筑後バイパス西山ノ上遺跡
7. 一般国道442号八女筑後バイパス室岡山ノ上遺跡 8. 一般国道442号八女筑後バイパス亀ノ甲山ノ上遺跡 9. 一般国道442号八女筑後バイパス後田遺跡
10. 一般国道442号八女筑後バイパス亀ノ甲植初遺跡 11. 一般国道442号八女筑後バイパス蒲原植初遺跡 12. 石人山古墳 13. 弘化谷古墳 14. 欠塚古墳
15. 駄渡瀬遺跡

第1図 坂田遺跡と周辺の遺跡分布図 [1/25,000]



第2図 坂田遺跡 調査位置図 [1/2,500]

2 位置と環境

坂田遺跡は、八女市今福字坂田に所在する遺跡で、坂田古墳として文化財等分布地図に登録されている。

遺跡は八女丘陵の脊梁部から派生した洪積台地が侵食されて狭く浅い谷となり、谷部は水田や溜池として利用されている。谷の両側には侵食された洪積台地が西側一帯に拡がり、複雑に入り組んだ水田が西側に向かって緩やかに下がる、周辺の水田面は標高23m前後、坂田遺跡は標高32mで約10mの比高差がある。また、西に面する道路は筑後市との市境となる。

遺跡周辺はこれまでほとんど遺跡の存在は知られていないが、弥生時代の遺跡として南東500mに昭和46年九州縦貫自動車道建設時に調査された西中ノ沢遺跡があり、弥生時代後期中頃の竪穴住居7軒が発見されている。北東200mには試掘調査によって確認された駄渡瀬遺跡があり、弥生時代の竪穴住居が発見されている。古墳時代の遺跡として北西1.2kmに前方後円墳の石人山古墳、装飾古墳の弘化谷古墳、西側800mには帆立貝式前方後円墳の欠塚古墳がある。



第3図 坂田遺跡 発掘前風景（東から）

3 調査経過

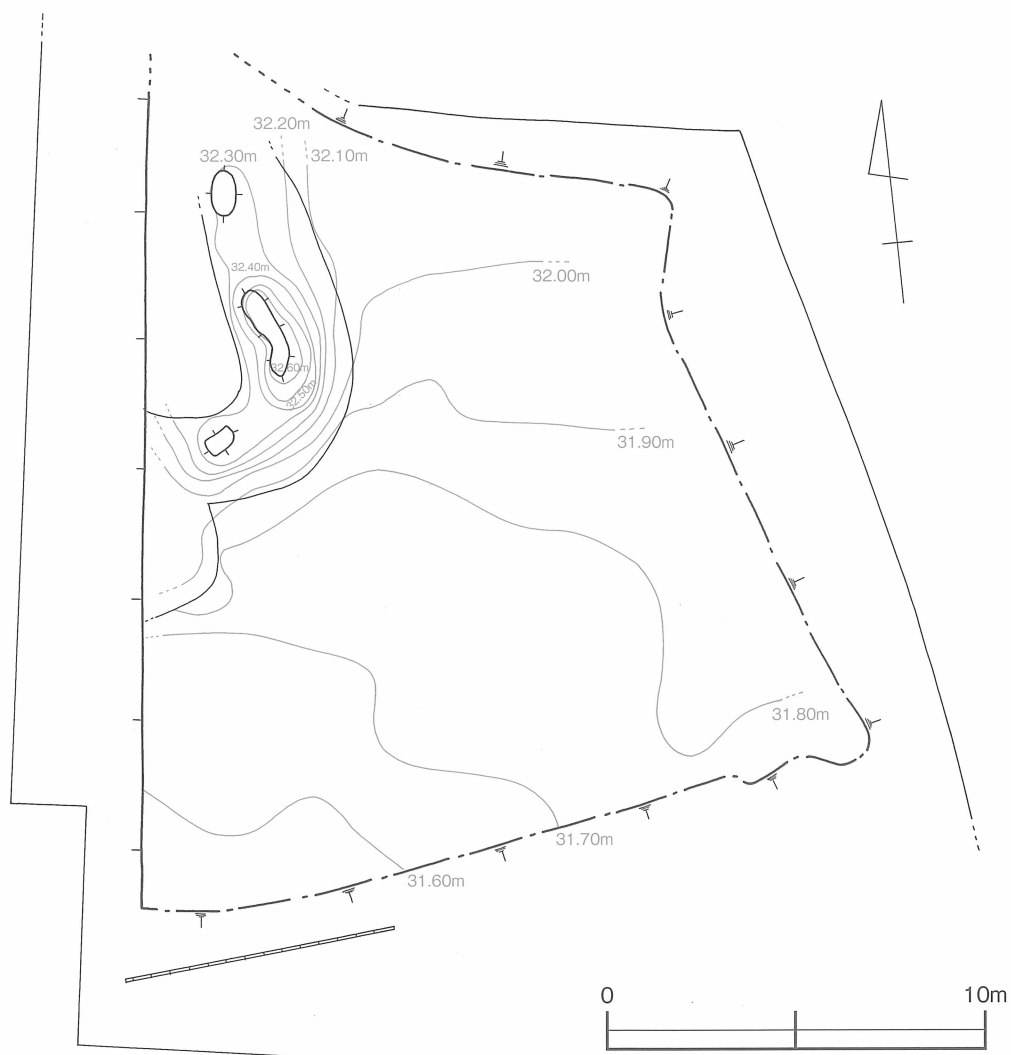
(作業日誌)

- 平成20年4月21日 資料館より器材運搬。調査区の草刈
30日 草刈終了。
5月 1日 本日より地形測量開始。高速道横よりレベル移動。
7日 遺構掘り下げ続ける。南側平板測量開始。
8日 発掘前写真撮影。墳丘にトレンチ設定し掘り下げ開始。
12日 本日よりバックホー導入して墳丘周辺の掘り下げ。
13日 墳丘周辺から弥生時代の竖穴を検出。調査範囲を拡張する。
16日 S B 0 1 掘り下げ。多量の土器出土。
20日 拡張を続け、土壙多数確認。墳丘にトレンチを入れる。
22日 土壙、墳丘の掘り下げ。古墳でなく中世の土塁と判明。
26日 土壙、柱穴、溝の掘り下げ。
6月 5日 清掃と全体写真撮影。
9日 各遺構写真撮影。1 / 1 0 0 測量開始。
17日 1 / 2 0 実測を続ける。
24日 1 / 2 0 実測を続ける。レベル記入開始。
25日 1 / 2 0 実測、レベル記入を続ける。実測図等の点検。
30日 実測図等の点検。器材撤去等本日で現地調査終了。

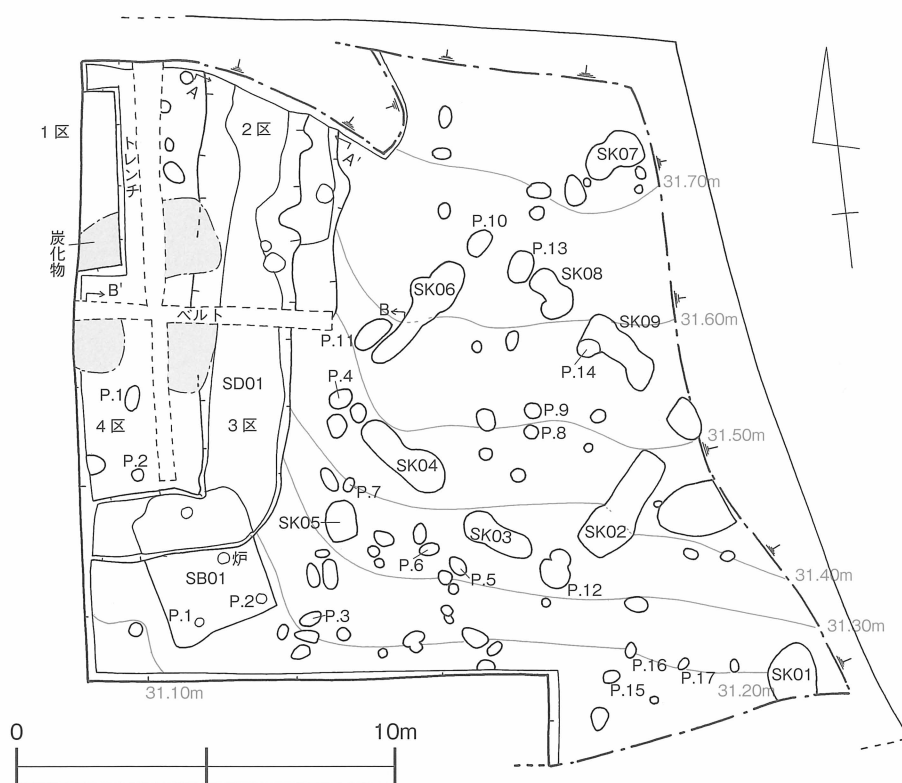


第4図 坂田遺跡 発掘前風景（北から）

工場
建物



第5図 坂田遺跡 地形図 [1/200]



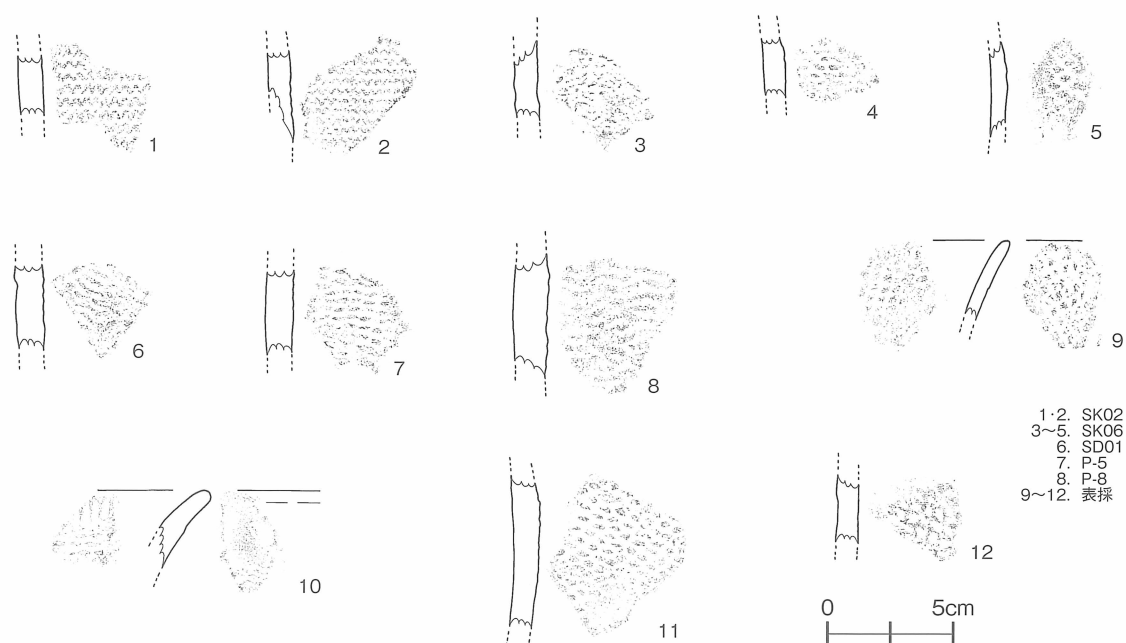
第6図 坂田遺跡 遺構配置図 [1/200]

4 遺構と遺物

当初古墳として調査を実施したが、発掘調査の結果、縄文時代の遺物、弥生時代の遺構と遺物、中世の遺構と遺物が発見された。

縄文時代（第7図）

縄文時代の遺構は検出されなかったが、弥生時代の遺構や表採で早期の押型文土器が発見された。



第7図 坂田遺跡 土壌（SK02・06）溝（SD01）ピット（P-5・P-8）表採 出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第7図	SK02	1	縄文土器				1~3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	押型文(山形)	ナデ	拓本有り
◇	◇	2	縄文土器				1~3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	押型文(山形)	ナデ	拓本有り
◇	SK06	3	縄文土器				1~5mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	黄褐色	不良	押型文(山形)	不明	拓本有り
◇	◇	4	縄文土器				小石が混ざる。砂粒を含む。	茶褐色	普通	押型文(楕円)	ナデ	拓本有り
◇	◇	5	縄文土器				1~3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	押型文(楕円)	ナデ	拓本有り
◇	SD01	6	縄文土器				1~3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	押型文(山形)		拓本有り
◇	P05	7	縄文土器				1~3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	押型文(楕円)		拓本有り
◇	P08	8	縄文土器				小石が混ざる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	押型文(山形)	ナデ	拓本有り
◇	表採	9	縄文土器				1~4mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	押型文(楕円)	押型文(楕円)	拓本有り
◇	◇	10	縄文土器				1~3mm大の小石が混ざる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	押型文(楕円)	押型文(楕円)、沈線	画面拓本有り
◇	◇	11	縄文土器				小石が混ざる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	押型文(楕円)	ナデ	拓本有り
◇	◇	12	縄文土器				砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	押型文(格子)		拓本有り

表1 坂田遺跡 出土土器一覧表

弥生時代

竪穴住居（S B）

調査区の南端でわずかに1軒発見された。北側の上面を中世の溝によって削平されているが壁と床面は良く残っていた。

S B 0 1（第9・10・11・29図）

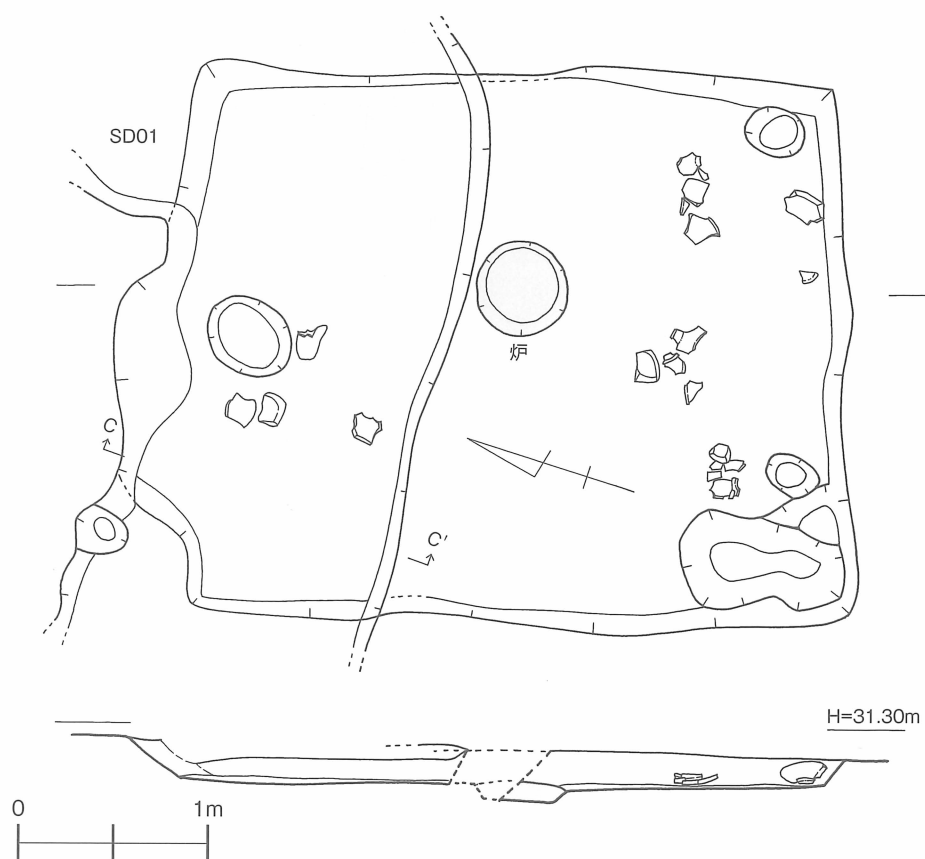
南北の長さ3.5m、東西の長さ2.9m、長方形の竪穴住居である。床面まで壁は南側で15cm前後、北側で中世の溝に削平された部分で10cm前後残る。床面は平坦でほぼ中央に直径50cm、深さ5cmのピットがあり、内部に焼け土を多く含むところから炉と考えられる。北壁近くと南西コーナー壁下にピットがあるが、深さが10-20cmと浅く柱穴とは考え難い。遺物は北側と南側に集中して土器と石器が出土している。



第8図 坂田遺跡 表土除去 遺構検出

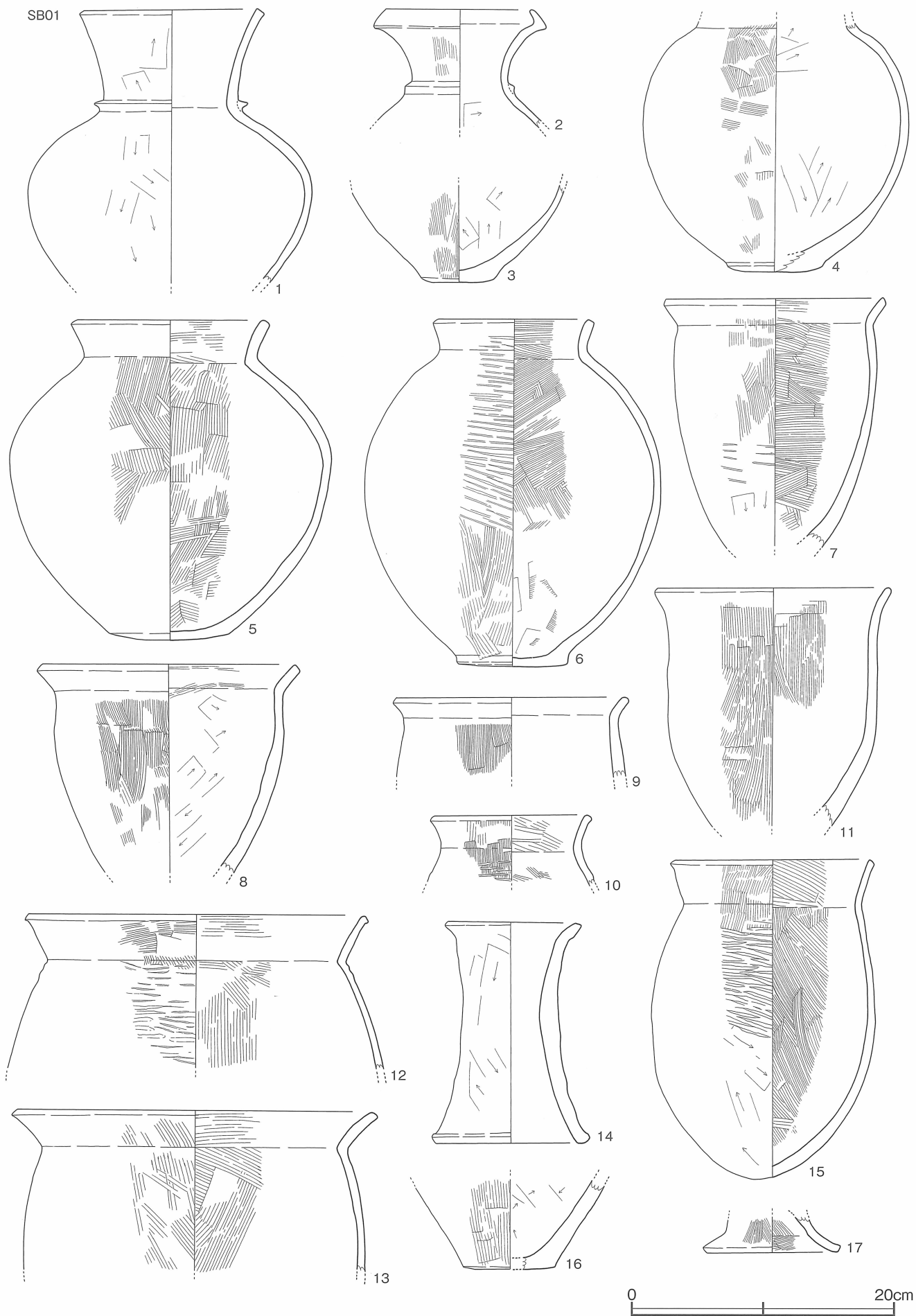


第9図 坂田遺跡 SB01 全景（南から）



第10図 坂田遺跡 竪穴住居（SB01）実測図 [1/40]

SB01



第 11 図 坂田遺跡 竪穴住居 (SB01) 出土土器実測図 [1/4]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第11図	SB01	1	壺(1/2片)	14			1~4mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ヨコナデ、ナデ	スス付着
〃	〃	2	壺(上部片)	11.2			1~5mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗黄灰茶褐色一部黒褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)、不明	ナデ(摩耗)、ヘラ調整	
〃	〃	3	甕(底部片)		5.5		1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ハケ目(摩耗)、ナデ	ヘラ調整(摩耗)	
〃	〃	4	壺(2/5片)		7.2		小石が混ざる。砂粒を含む。	赤茶褐色	普通	ハケ目後ナデ(やや摩耗)、ナデ	ナデ、ヘラ調整	黒斑有り
〃	〃	5	壺(2/5片)	14	9	24.3	1~6mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	ハケ目、ヨコナデ	黒斑有り
〃	〃	6	壺(1/2片)	12.4	8.4	26.3	1~6mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ、タタキ(摩耗)、ハケ目	ハケ目、ハケ目後ナデ	
〃	〃	7	甕(1/3片)	17			1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目、タタキ後ヘラ調整	ハケ目	
〃	〃	8	甕(1/5片)	20			小石が混ざる。砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	ハケ目、ヘラ調整	
〃	〃	9	甕(口縁部片)	18			小石が混ざる。砂粒を含む。	茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
〃	〃	10	甕(口縁部片)	11.6			1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後ヨコナデ、ハケ目、ハケ目後タタキ	ハケ目	
〃	〃	11	甕(1/2片)	18			1~5mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄茶灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	スス付着
〃	〃	12	甕(口縁部片)	25.6			1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗黄褐色/暗灰褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目、タタキ(摩耗)	ハケ目	
〃	〃	13	甕(上部片)	28			1~4mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	ハケ目	
〃	〃	14	器台(1/2片)	10.4	12	16.7	1~6mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗茶灰褐色	普通	ヘラ調整	ナデ	
〃	〃	15	甕(3/5片)	15		24.2	1~7mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗黄灰茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目、タタキ、ヘラ削り	ハケ目	黒斑有り
〃	〃	16	甕(底部片)		7		1~4mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗黄褐色/茶褐色	普通	ハケ目、ナデ	ヘラ調整	
〃	〃	17	高坏(脚部片)		10		1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗黄赤褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ハケ目	

表 2 坂田遺跡 SB01 出土土器一覧表

土 壇 (SK) (第13・14図)

調査では9基の土壇が発見された。その内SK02、03、04、06、08、09は長方形にめぐり、土壇の無い四隅には大型のピットが配置されている

SK01 (第12・15図)

調査区の南東端から発見された土壇で、主軸はほぼ南北のやや歪な長方形の土壇で、長さ1.5m、幅0.95m、深さ25cm、底面はすり鉢状となる。

SK02 (第7・12・16図)

長方形に並ぶ南東側の土壇で、主軸は北東-南西方向、長方形で長さ3.05m、幅0.9-1.05mの土壇、深さ40-50cm、底面は平坦で北東端に直径25cm、深さ10cmのピットがある。断面はほぼ垂直な箱型をなし、内部は暗黒色土、暗黒褐色土が堆積している。土壇の両側には約1m離れて、直径約50cm、深さ50cmの大型ピットが存在する。

SK03 (第12・17図)

長方形に並ぶ南西側に2基存在する土壇で、主軸は北西-南東方向、長方形で長さ1.9m、幅0.65-0.8mの土壇、深さ50cm前後、底面は平坦で断面はほぼ垂直な箱型をなし、内部は暗黒色土、暗黒褐色土が堆積している。

SK04 (第12・18図)

長方形に並ぶ南西側に2基存在する土壇で、主軸は北西-南東方向、長方形で長さ2.5m、幅0.8-0.9mの土壇、深さ40cm前後、底面は平坦で両端に直径35-50cm、深さ10cmのピットがある。断面はほぼ垂直な箱型をなし、内部は暗黒色土、暗茶褐色土が堆積している。

SK05 (第12・19図)

竪穴住居の東側から発見された土壌で、主軸はほぼ南北のやや歪な長方形の土壌で、長さ1.6 m、幅0.7 m、深さ3-10 cm、底面は凹凸がある。

SK06 (第7・12・20図)

長方形に並ぶ北西側の土壌で、主軸は北東-南西方向、長方形で長さ3.25 m、幅0.45-0.7 mの土壌、深さ45 cm、底面は平坦で断面はほぼ垂直な箱型をなし、内部は暗黒色土、暗黒褐色土が堆積していた。土壌の両側には約1 m離れて、直径約50 cm、深さ40-50 cmの大型ピットが存在する。

SK07 (第12・21図)

調査区の北東端から発見された土壌で、主軸はほぼ東西のやや歪な長方形の土壌で、長さ1.5 m、幅0.8-1.0 m、深さ30 cm、底面はすり鉢状となり暗黒色土が堆積している。

SK08 (第12・22図)

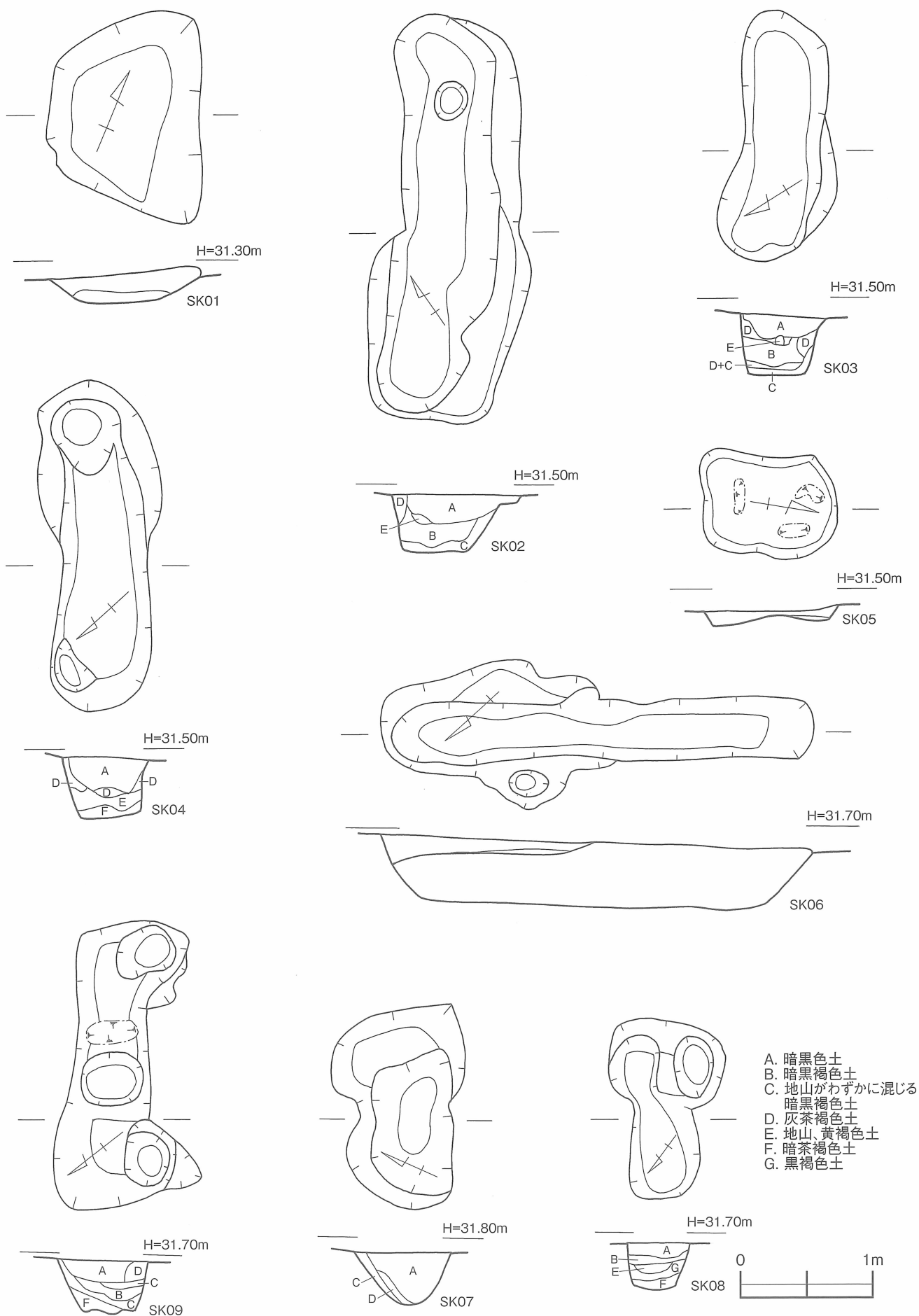
長方形に並ぶ北東側に2基存在する土壌で、主軸は北西-南東方向、長方形で長さ1.4 m、幅0.4-0.5 mの土壌、深さ35 cm前後、底面は平坦で断面はほぼ垂直な箱型をなし、内部は暗黒色土、暗茶褐色土が堆積している。

SK09 (第12・23図)

長方形に並ぶ北東側に2基存在する土壌で、主軸は北西-南東方向、長方形で長さ2.1 m、幅0.5-0.65 mの土壌、深さ30-40 cm前後、底面は平坦で両端に直径40-50 cm、深さ10-20 cmのピットがある。断面はほぼ垂直な箱型をなし、内部は暗黒色土、暗茶褐色土が堆積している。

ピット群 (第7・28図)

調査区のほぼ全域から多数ピット群が発見された。ピットは特に長方形に並ぶ土壌周辺では大型で直径40-50 cm、深さも50 cmを越すものもあるが、それ以外のピットは直径20-30 cm、深さも10 cm程度であり、柱穴と考えられるピットもあるがまとまるものはない。



第 12 図 坂田遺跡 土壌 (SK01 ~ 09) 実測図 [1/40]



第 13 図 坂田遺跡 土壇群



第 14 図 坂田遺跡 土壇群



第 15 図 坂田遺跡
SK01

第 16 図 坂田遺跡
SK02



第 17 図 坂田遺跡
SK03



第 18 図 坂田遺跡
SK04

第 19 図 坂田遺跡
SK05



第 20 図 坂田遺跡
SK06



第 21 図 坂田遺跡
SK07

第 22 図 坂田遺跡
SK08



第 23 図 坂田遺跡
SK09

土塁（第24・25・26・27図）

調査区西側から発見された。当初は坂田古墳の墳丘として地形測量調査後、東西にトレンチを設定した結果、主体部が無く、また、盛土の形状が古墳の墳丘と異なっており、さらに盛土を取り囲むように方形の溝を検出し、溝内より中世の土器が出土したことより中世の土塁と判断した。

土塁はその大半を大きく削平されており、かろうじて周辺の地形より識別できたのは南北約9m、東西約6mの範囲で、最も高いところで周辺より60cmほど高かったにすぎない。土塁のほぼ中央に東西・南北のトレンチを設定して土塁を観察した。東西のトレンチ調査では標高31.80mレベルに暗黒色土の旧表土があり、旧表土から溝を掘削、溝内側には旧表土の上に直接黄灰色粘土ブロックと地山の赤褐色土を積み上げて土塁を築造している。南北のトレンチ調査でもほぼ同様な築造方法をとっている。土塁中からは遺物は出土していない。

溝（SD）

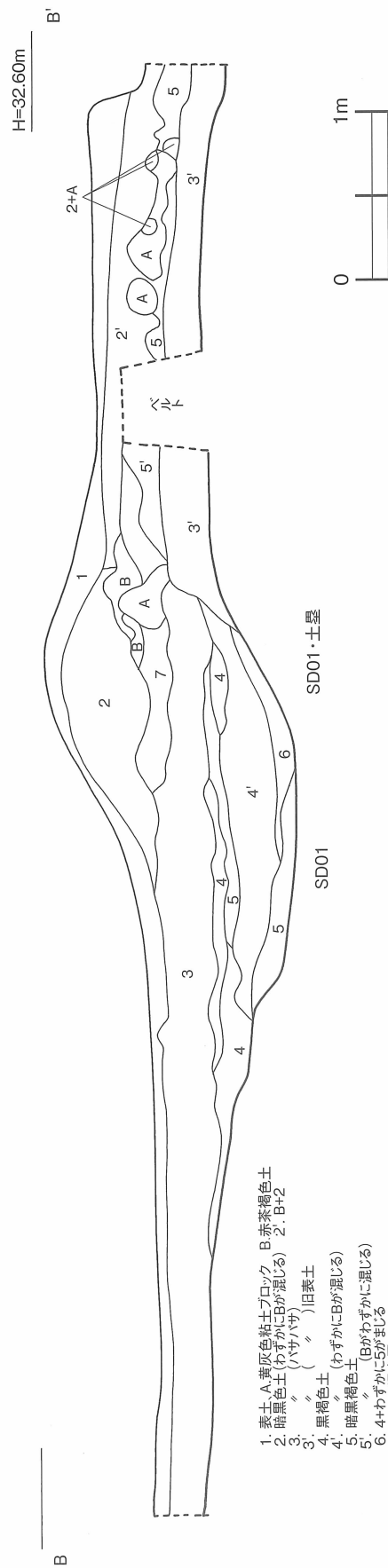
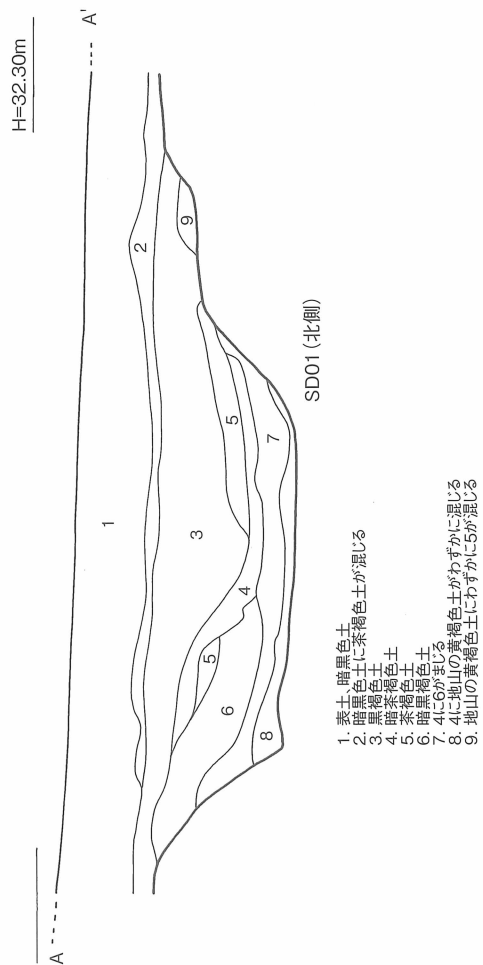
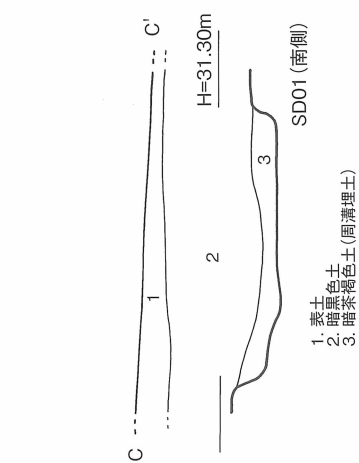
土塁の周辺を取り囲む溝が1条発見された。

SD01（第7・24・25・26・27・28図）

調査区の北側から南側へ12mのところで西側に直角に曲がり4.5mまで確認できた。北側、西側はすでに工場建設によって消滅している。北側の幅3.4m、深さ71cm（底面標高30.95m）、コーナー部分では幅2.3m、深さ24cm（底面標高31.05m）、西側では幅1.65m、深さ5cm（底面標高31.10m）。溝内の土層を見ると溝底には水が溜まった形跡



第24図 坂田遺跡 SD01と土塁



第25図 坂田遺跡 溝 (SD01)・土塁 土層実測図 [1/40]



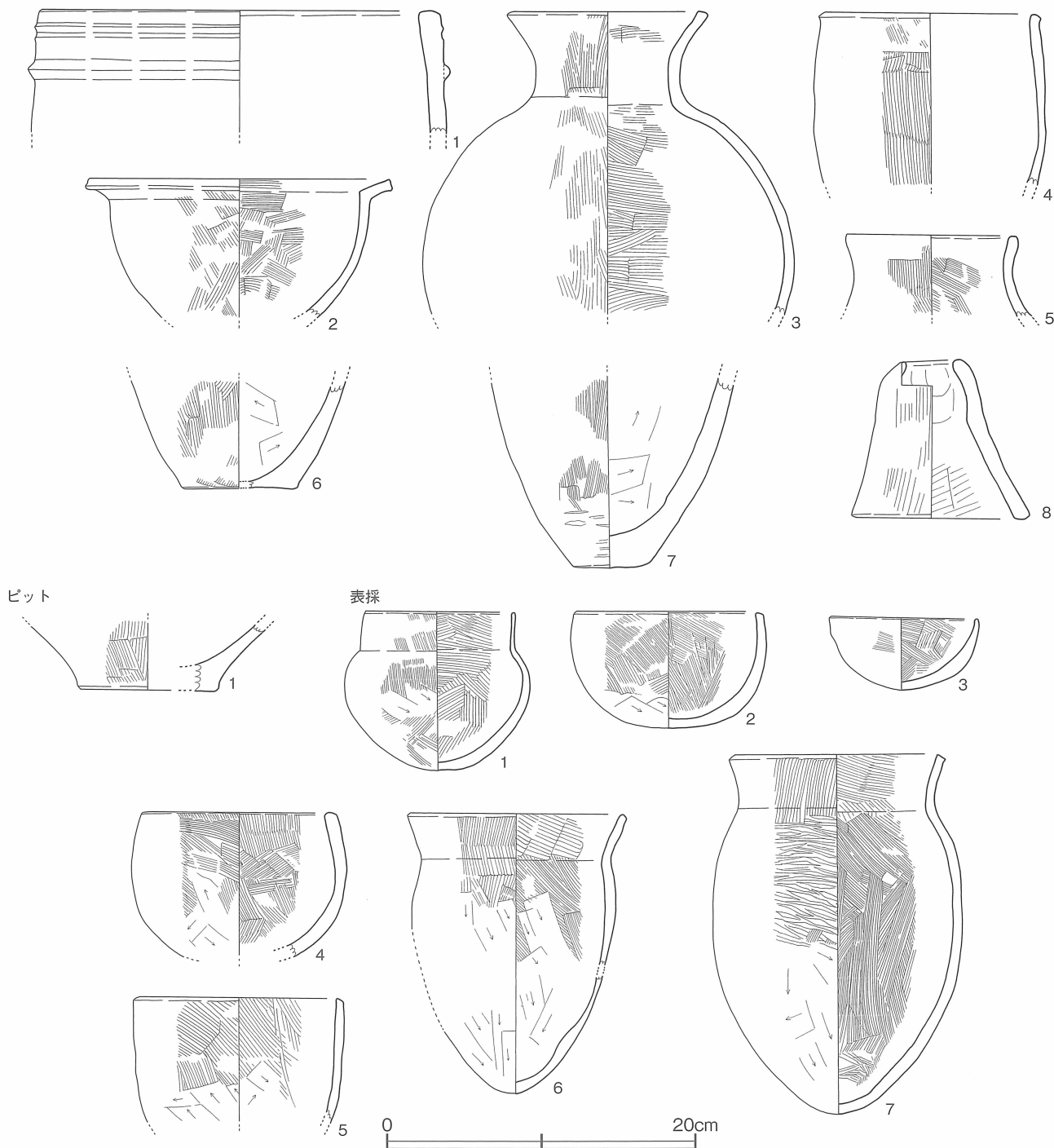
第 26 図 坂田遺跡 SD01 と土塁



第 27 図 坂田遺跡 SD01 土層

はなく、溝底付近にある暗茶褐色土の上面には厚く黒色土が堆積しており、長期間放置されていたと思われる。溝内からは瓦質の火舎と土師器の小片がわずかに出土している。また、SB01と切り合っており、SB01の土器が多く混じっている。

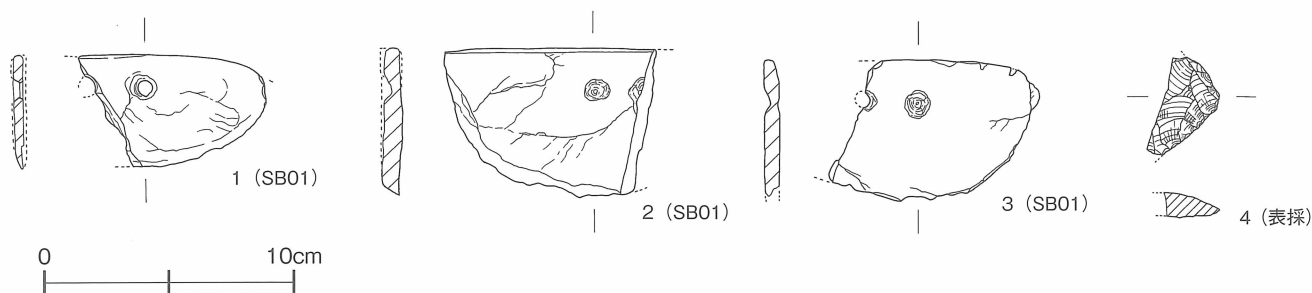
SD01



第28図 坂田遺跡 溝(SD01)ピット 表採 出土土器実測図 [1/4]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第28図	SD01	1	火舎(口縁部片)	26			小石が混ざる。砂粒を含む。	灰褐色	不良	ナデ、不明、ヨコナデ	不明	
〃	〃	2	鉢(1/6片)	19.4			1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	ハケ目	
〃	〃	3	壺(1/4片)	13			1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄褐色/灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目後ナデ、ナデ、ハケ目	
〃	〃	4	甕(上部片)	14.4			小石が混ざる。砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	黒斑有り
〃	〃	5	甕(口縁部片)	11			小石が混ざる。砂粒を含む。	茶黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目後ヨコナデ、ハケ目	
〃	〃	6	甕(底部片)		7.6		1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ハケ目、ハケ目後ナデ、ヘラ調整	ヘラ調整	
〃	〃	7	甕(底部片)		5		小石が混ざる。砂粒を含む。	暗茶褐色	やや不良	ハケ目、タタキ(摩耗)、不明	ヘラ調整	
〃	〃	8	支脚(2/3片)	3.5	11.5	10.1	1~5mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ナデ、ハケ目(摩耗)、ヨコナデ	指圧痕、ナデ、ハケ目(摩耗)	黒斑有り
〃	P04	1	壺(底部片)		9		1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	ハケ目、不明	不明	
〃	表採	1	壺(復原完形一部欠損)	9.6		10.2	小石が混ざる。砂粒を含む。	暗褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ、ハケ目一部ヘラ調整	ハケ目	
〃	〃	2	鉢(口縁部一部欠損)	12.2		7.5	1~6mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目、ヘラ削り	ハケ目、ナデ	
〃	〃	3	鉢(口縁部欠損)	9.5		4.7	小石が混ざる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ナデ一部ハケ目	ハケ目	
〃	〃	4	鉢(1/2片)	12.6			1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗黄赤褐色	普通	ナデ、ハケ目、ヘラ削り	ハケ目	
〃	〃	5	鉢(上部片)	13.6			1~3mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗灰黄褐色	普通	ナデ、ハケ目、ヘラ削り	ハケ目、ハケ目後ヘラ削り	
〃	〃	6	甕(上部片・底部片)	14		18	1~4mm大の小石が混ざる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目、ヘラ削り	ハケ目、ハケ目後ヘラ削り、ヘラ削り	黒斑有り
〃	〃	7	甕(1/2片)	14		23.3	小石が混ざる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	工具による圧痕、ハケ目、タタキ、一部ハケ目ヘラ削り	ハケ目	

表 3 坂田遺跡 SD01・ピット・表採 出土土器一覧表



第 29 図 坂田遺跡 竪穴住居 (SB01) 表採 出土石製品実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器種	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	備 考
第29図	SB01	1	石庖丁(1/2片)			粘板岩	※両面剥離している
〃	〃	2	石庖丁(1/2片)未製品			片岩	
〃	〃	3	石庖丁(1/2片)未製品		0.6	片岩	
〃	表採	4	スクレーパー			黒曜石	

表 4 坂田遺跡 SB01・表採 出土石器一覧表

5 まとめ

今回の調査では、当初古墳としていた土盛りが中世の土塁と判明し、土塁の周りに壕が巡ることも確認された。土塁調査時に弥生時代の竪穴住居が発見され、このため調査地区を拡張したところ弥生時代の遺構が発見され弥生式土器が出土したが、出土遺物の整理段階で弥生式土器に混じって縄文期の押型文が混じっていることが判明した。

押型文土器は多くが胴部片で大半は外面のみに施文しており、文様も楕円文と山形文がほぼ同量で、わずかに格子目文が混じる。この内、内面に施文が見られるものは2点で、そのうち1点は外反する口縁部に同一原体で条痕が施される。押型文土器の時期は外反する口縁と同一原体で条痕を施す特徴から縄文時代早期末頃と考えられる。

弥生時代の遺構としてわずかに竪穴住居1軒と9基の土壇が発見された。竪穴住居は中央に炉を有し柱を持たない、長方形でやや小型の竪穴住居である。竪穴住居内から弥生時代後期前半の土器と供に石庖丁が3点出土しており、生活の場であったことが伺われる。竪穴住居の東側に発見された6基の土壇群は長方形に巡り、形態も同一で土壇内部の堆積土は竪穴住居と同じであり、土壇のない四隅には大型のピットが存在することから大型の建物の可能性がある。建物とすると北西-南東棟で8m×7mの方形の建物となる。しかし、坂田遺跡は八女丘陵から南に派生した洪積台地が幾重にも侵食された台地の縁辺にあり、両端を谷に挟まれた台地は幅が狭く大規模な集落形成は困難と思われ、谷水田を基盤とした小規模な集落が営まれていたと思われ、大型の建物とすると特殊な用途の建物と考えられる。

中世の土塁は調査地点を東端として西側にその中心があったものと思われるが、台地の幅も最大で100m、長さも150m程であり、また、土塁も比較的粗い盛土であるところから大規模な土塁を伴う施設とは考え難い。土塁の時期として須恵質の土器が溝から1点出土しているのみであるが、中世に属するものと思われるが細かな時期は不明である。この地に中世の土塁を持った施設が存在することは台地の南端、西山ノ上遺跡からも最近の発掘調査で中世武士の居館が発見されており、台地一帯に中世武士の居館が点在している可能性がある。

報告書抄録

ふりがな		さかたいせき						
書名		坂田遺跡						
副書名		福岡県八女市今福字坂田所在遺跡の調査報告書						
巻次								
シリーズ名		八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号		第 86 集						
編著者名		赤 崎 敏 男						
編集機関		八女市教育委員会						
所在地		834-8585 福岡県八女市本町647 TEL0943-23-1982						
発行年月日		西暦 2009年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さかた 坂田遺跡	ふくおかけん 福岡県 やめしまふく 八女市今福 あださかた 字坂田 620 番地			33°13'25"	130°31'30"	080421 ~ 080630	約 400 m ²	工場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
坂田遺跡	集落	縄文 弥生 中世	竪穴住居・土壇・ピット 土塁・溝		押型文土器 弥生式土器・石庖丁 火舎			

坂田遺跡

八女市文化財調査報告書
第 86 集

平成21年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 橋 爪 印 刷
八女市吉田1899-1